

⑫ 公開特許公報 (A)

平3-199538

⑤Int.Cl.⁵E 03 D 9/04
E 04 B 1/62

識別記号

府内整理番号

⑬公開 平成3年(1991)8月30日

Z

8404-2D
2118-2E

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全3頁)

⑭発明の名称 脱臭システム

⑮特 願 平1-339040

⑯出 願 平1(1989)12月27日

⑰発明者 飯田 正己 神奈川県茅ヶ崎市本村2丁目8番1号 東陶機器株式会社
茅ヶ崎工場内

⑰発明者 山崎 百合子 神奈川県茅ヶ崎市本村2丁目8番1号 東陶機器株式会社
茅ヶ崎工場内

⑰発明者 秋葉 圭一郎 神奈川県茅ヶ崎市本村2丁目8番1号 東陶機器株式会社
茅ヶ崎工場内

⑰出願人 東陶機器株式会社 福岡県北九州市小倉北区中島2丁目1番1号

⑰代理人 弁理士 下田 容一郎 外2名

明細書

(発明が解決しようとする課題)

1. 発明の名称

脱臭システム

2. 特許請求の範囲

トイレ内の臭いの発生源から吸引ダクトを介して脱臭する脱臭機構において、

前記臭いの発生源と吸引ダクトの間に調節弁を設けたことを特徴とする脱臭システム。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、トイレ内の便器やごみ箱などからの臭いを脱臭する脱臭システムに関する。

(従来の技術)

トイレ内には、大便器、小便器、ごみ箱など、臭いの発生源が多いため、これらから出る悪臭を脱臭するため、夫々の臭いの発生源ごとにダクトを配設し、換気ファンのような吸引機構を設けている。又、夫々の臭いの発生源からのダクトを1つにまとめて、一括して脱臭するようにした機構もある。

しかしながら夫々の臭いの発生源ごとにいくつもダクトを配設し、吸引機構を設けていたのは、資材や施工費がかさみ、設備上無駄である。又、夫々の臭いの発生源からのダクトを1つにまとめて、一括して脱臭する場合には、全体が同じ吸引力で脱臭されるため、夫々の臭いの発生源ごとの細かい調節ができず、例えば悪臭がなくなつてもなお吸引し続け、季節によっては利用者が寒い思いをする虞れがある。

(課題を解決するための手段)

上記課題を解決するために本発明は、トイレ内の臭いの発生源9, 17, 21, 27と吸引ダクト37の間に調節弁41~47を設けた。

(作用)

上記手段によれば、臭いの発生源がいくつもある場合、その場所の悪臭の有無に応じて調節弁を適宜調節し、吸引を弱めたり、止めたりする。

(実施例)

第1図は本発明の脱臭システムを適用したトイ

レの伏瞰図、第2図は同じく配管図である。

図で1はトイレを示し、トイレ1は、図示せざる建物軸体内に壁パネル3…を建廻らし、出入り口5を設けて形成される。トイレ1内には、出入り口5側の壁パネル3に沿って配設された配管ユニット7を介して3台の小便器9…が設けられている。

出入り口5正面の壁パネル3側には、仕切り壁11…とドア13…で仕切られた2つブース内に、夫々配管ユニット15…を介して腰掛便器17…が設けられている。又、この2つのブースと並んで、洗面器ユニット19が設けられ、洗面器ユニット19内にはごみ箱21が収納されている。

小便器9…に近い壁パネル3と床23の間に取り付けられた幅木25には、脱臭口27が設けられている。脱臭口27にはダクト29が接続され、小便器9、腰掛便器17、ごみ箱21などの臭いの発生源に夫々接続されたダクト31、33、35と共に吸引ダクト37に接続されている。

センサー51～57は、夫々コントローラ59に接続されており、悪臭の主要因であるアンモニア濃度が所定の濃度よりも下がると、このコントローラ59の働きで、各臭いの発生源からのダクト29～35に設けられたバルブ41～47を絞って、換気ファン39による吸引力を弱める。そして更にアンモニア濃度が下がって所定の値になると、バルブ41～47を完全に閉じて、吸引を止める。このコントローラ59によるバルブ41～47の開閉は、臭いセンサー51～57ごとに個別に調節され、脱臭のシステム化が図られている。

(発明の効果)

以上詳述したように本発明によれば、トイレ内の悪臭の有無に応じて、吸引ダクトによる吸引を自在に調節することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の脱臭システムを適用したトイレの伏瞰図、第2図は同じく配管図、第3図は別実施例のブロック図である。

る。

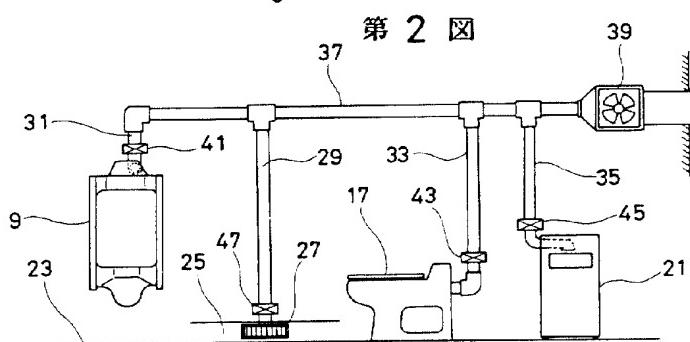
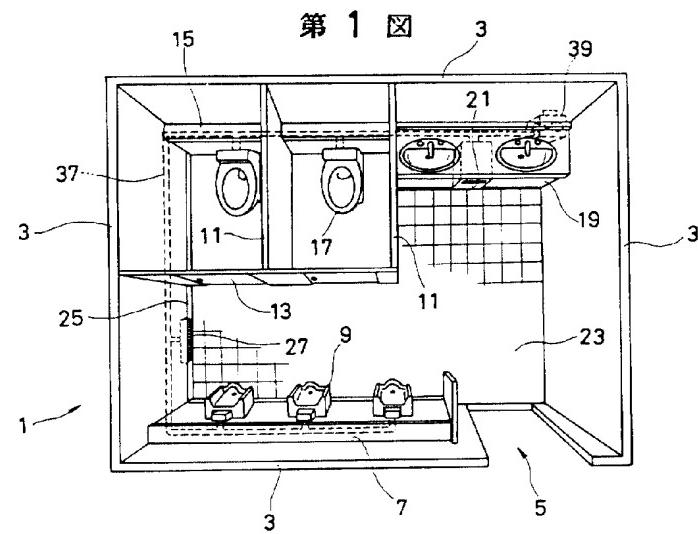
吸引ダクト37の下流側には、悪臭吸引のための換気ファン39が設けられ、上述の臭いの発生源9、17、21及び27からの悪臭を外部に排出する。又、吸引ダクト37と各々の臭いの発生源9、17、21及び27の間には夫々調節弁41、43、45及び47が設けられ、各々の調節弁41～47を夫々個別に手動で調節することにより、吸引を止めたり、弱めたりすることができる。これにより臭いの発生源9、17、21及び27の内、十分に脱臭できた部分については、吸引を止め、冬場など利用者が吸引作用で寒い思いをするのを防止することができる。

次に本発明の別実施例を第3図のブロック図によって説明する。尚、上述の実施例と同一部分には同一番号を付して説明を省略する。

小便器9、大便器17、ごみ箱21及び幅木脱臭口27などの臭いの発生源には、夫々悪臭の主要因であるアンモニア濃度などを検知する臭いセンサー51～57が設けられている。各臭いセン

尚、図面で1はトイレ、9は小便器、17は大便器、21はごみ箱、27は幅木脱臭口、37は吸引ダクト、41～47は調節弁である。

特許出願人	東陶機器株式会社
代理人	下田容一郎
同	大橋邦彦
同	小山有



第3図

